

パリ市が導入した貸自転車制度“Vélib’”について

パリ市（人口 2,144,700 人）はセルフサービスの貸自転車制度、“Vélib’”を7月15日からスタートした。“Vélib’”とは Vélo（自転車）と Liberté（自由）を合わせた造語である。

従来の貸自転車と違い、「いつでも好きな時に好きな場所で」借りて返せることがポイント。

年末にかけて無人貸出スタンドは市内にはほぼ 300 メートルに 1 か所設置され、その総数は最終的に地下鉄の駅（297）の約 5 倍の 1451 か所に上る。

パリ市は Vélib’の導入で、従来から進めてきた市街地からの車の締め出しに一層拍車がかかることを期待している。

1 概要

(1) 貸出スタンド

7月15日のスタート時点では、貸出スタンド 750 所に 10600 台の自転車が設置された。今後、年末にかけて整備が進められ、最終的には 1451 所に 20600 台が整備される予定。

(2) 利用料金、利用方法

利用金は基本利用料金+使用料からなる。

基本利用料金は、1日（1€）、1週間（5€）、1年（29€）の3つに分けられる。使用料については、最初の30分は無料。30分超60分以下返却で1€、60分超90分以下で2€。90分以降は30分ごとに4€。利用料金に加えてデポジットとして150€が課される。つまり、1日利用で1時間借りると支払う料金は2€ということになる。

支払はICチップのついたクレジットカードの利用が可能で、カルトブルー¹のほか VISA や Master、JCB などが使用できる。



貸出ステーションの様子

自転車は支柱（Borne）に留められている



利用者はまず、機械操作で支払い。

¹ フランス国内で広く普及しているデビットカード。

1日あるいは1週間利用の場合、事前の手続きは必要なく、貸出スタンドに直接赴いて料金を支払い自転車を借りる。1年利用の場合は、区役所や地下鉄の駅、郵便局、あるいはインターネット上で手続きを行うと、2週間ほどで専用のカードが自宅に送付され、以後はカードを貸出スタンドで **Borne** と呼ばれる自転車を留め置く支柱にかざすだけで借りることができる。

2 運営体制

Vélib'の運営費用について、パリ市は負担せず代わりに JC Decaux 社²が負担する。利用料金はパリ市の収入となり、運営費用について同社は市街地施設への広告設置収入で賄う。

3 実際に使用してみる

機械操作が、初めての利用者には少しわかりにくい。機械操作で3~4分はかかる。

パリ市でも操作案内のために、貸出スタンドによってはスタッフを巡回させている模様で、筆者は幸運にも、居合わせたスタッフに教えてもらうことができた。

1年利用パス保有者は、乗りたい自転車のところで **Borne** にカードをかざすだけなので一瞬で済み非常に便利。機械操作が煩わしく感じる利用者の中には、今後、1年カードを取得する者も出てくると思われる。³

現時点での貸出スタンドの数は最終設置数（1451所）の半分強 750所。そのため、それほど多くないという印象を受ける。

自転車専用レーンが設けられているところ以外は、バスなども走る車道を走らなければならない。日本と違い、路上駐車車両が多いため、右（路上駐車車両）にも左（脇を通る車両）にも注意を払わなければならない。

事故防止のため、自転車専用レーンのさらなる整備が求められるところである。



自転車・バスレーン



自転車専用レーン

² 広告会社。同社は広告を設置する代わりにバス停等の公共施設の設置を行っている。同社は日本でも横浜市などで同様の取組を行っている。

³ パリ市には連日、2500件近い申し込みが寄せられている。

貸出スタンドによって、貸出、返却の偏りが見られるところがある。すなわち、すべて貸し出されて、借りたくても借りられない所もあれば、常に自転車が一杯で返却ができないところもある。

市内には、自転車を荷台に乗せたトラックがしばしば見かけられる。満杯のスタンドから空のスタンドへ自転車を移すことで、需給のバランスを調整していると考えられる。

4 パリ市の狙い ～街からの車の締め出し～

パリ市ではここ数年、車の通行が不便になるよう、代わりに公共交通機関が利用しやすくなるよう、様々な取組を進めてきた。この結果、2001年以來、市内を走る車は13%減り、公共交通利用者が7%増加した。ちなみに、市民の自家用車の保有世帯率は44.5%で、ほぼ2世帯に1世帯が車を所有している状況である。

(1) 車締め出しに向けた取組

車の通行規制に向け実施されている主な取組は以下のとおり。

- ・一方通行区間の増加
- ・日曜日のセーヌ河岸の自動車専用道路の閉鎖
- ・路上有料・無料駐車スペースの廃止

Vélib'の貸出ステーションの設置にあたっては、75%が車道スペースから（残り25%は歩道スペースから）で、従来あった駐車スペースの多くが廃止された。

(2) 公共交通機関の整備

- ・バスレーンの設置（2004年末でバス60路線全長585km中約190km）

渋滞に左右されないバスの運行を実現。平均時速がそれまでの9kmから12kmに上昇。

- ・トラムの整備

2006年12月、市内に約70年ぶりに復活。市南部の大通りの7.9キロの区間を17駅24分で結ぶ。地下鉄の駅の最寄りにトラムの駅が設置されており、地下鉄との乗り換えはスムーズ。現在、地下鉄とトラムはそれぞれチケット（1.4€）を購入しなければならないが、1枚で双方の利用が可能になるよう検討が進められている。

- ・自転車の整備、自転車レーンの整備

貸自転車自体はVélib'導入以前から行われていた。パリ市交通公団が実施している貸自転車の場合、市内2か所で借りることができる。料金は1日利用で平日は10€、週末は15€。インターネットで事前に予約が可能。

自転車専用レーンは現在市内に371km。今後さらなる整備が検討されている。

5 カーシェアリング普及の動き

人々の車から公共交通機関へのシフトが進む一方、自家用車を持たず、使いたいときに使いたい時間だけ使うカーシェアリングの普及も見られる。

ある会社ではパリ市内に20の貸出場所を設け、利用希望者はインターネットや携帯電話

で事前に予約することができる。

従来のレンタカーと違い 1 時間単位で使用できることから、買い物などへの使用が期待されている。

カーシェアリングの普及に向けては、パリ市も支援を行っている。

フランスでは、アメリカやドイツ、日本などと比べるとまだまだ普及が進んでいないが、今後、都市への車の流入制限の動きが他都市でも広がれば、大いに普及する可能性がある。

6 リヨン市における貸自転車の取組

フランス中部に位置する Lyon 市（人口 445,452 人）と隣接する Villeurbanne 市（人口 124,215 人）では、2005 年 5 月から今回同様の貸自転車のサービスを開始した。

1 台 1 当たり 1 日 10 回使用されている。平均走行距離は 2.4km/回。

多数の貸出スタンドを設け、いつでもどこでも貸借できる体制を整えたこと、最初の 1 時間半が無料、年間利用券も 10€ と値段を非常に低く抑えたことなどが功を奏して市民に受け入れられている。

環境面ではこれまでに、3600 トンの二酸化炭素の排出効果があったほか、2000 万キロ分の自動車走行を削減効果があった。

利用者の 80% が通勤・通学のために使用。利用者のうち 60% が男性。55% が 30 歳以下。33% が学生で、43% が管理職を含めた労働者という状況である。

7 他都市に広がる動き

Montreuil（セーヌ・サンドニ県）や Vincennes（バルドマルヌ県）などパリ市に隣接する都市も貸自転車制度に興味を示しており、実現した場合には、相互の乗り入れ（郊外で借りてパリで乗り捨てなど）が期待される。

さらに、マルセイユやブザンソン、エクサンプロバンスなどのフランスの地方都市、さらにはブリュッセル（ベルギー）、セビリア（スペイン）など国外にも広がる動きを見せている。

8 日本における考察

日本ではフランスと違い、自転車保有台数が非常に多い。

平成 16 年における人口一人当たり保有台数は 1.87 台で、国民一人が 2 台近くの自転車を所有している状況である。⁴

多すぎる自転車を駅周辺の駐輪自転車のマナーの悪さなども非常に問題になっている。

自転車をめぐる環境は、日本とフランスではあまりに違っている。

むしろ、パリ市が市街地の環境対策のために取り組んでいる自転車以外のその他の取組

⁴ 自転車産業振興協会『自転車統計要覧』より。

(車両流入制限に向けた対策、トラム等の整備)のほうが参考になる点が多い。

特にトラムは、低床車両が高齢者などにとって利用しやすいことや環境面での効果、そしてそのシンボル性などから注目されており、国土交通省でも今後、10都市で新たに導入する方針を掲げている。

パリ市では、トラム開通で沿線近辺の不動産の売れ行きが良くなるなど、様々な側面にその効果が波及している。

9 最後に

パリ市の一連の車の通行規制の取組に対しては、批判もある。

一方通行区間が増え路上駐車が不便になった結果、客足が減り廃業した店もある。

しかし、住民意識調査では車を制限する一連の政策に対して78%の住民が支持しており、Vélib'についてもいまのところ市民に好意的に受け入れられているように見える。

折しも2008年3月には統一地方選挙が予定されている。

引き続き車の締め出しを続けるのか、それとも緩和させるのかは争点の一つに上る見込みであり、Vélib'の今後の成功の可否は選挙戦の行方に大きな影響を与えるといえる。

*参考文献

LE FIGARO (6月28日付け)

Le Monde (7月31日付け)

L'EXPRESS 誌第2921号

朝日新聞 (2006年4月22日付け)

自治体国際化フォーラム (2006年9月号)